

イシュバンク

データセンターのパフォーマンスの向上—レジリエントな未来への架け橋を築く

イシュバンクは1924年に設立され、25,000人の従業員を擁するトルコ共和国初の公営銀行です。イスタンブールに本店を構えており、トルコ国内では1,300以上の支店と6,500台以上のATMネットワークを運営し、国外では23の支店を展開しています。同銀行は、法人、商業、小売、個人向けの各バンキング・サービス、金融・現金管理サービス、住宅ローン、モバイル端末を対象としたバンキング・サービスを提供しています。同銀行の顧客は2,000万人を超え、総額720億米ドルを以上の資産を管理しており、株式はイスタンブールとロンドンの証券取引所で取引されています。

ビジネス課題

大規模なネットワーク障害を経験したイシュバンクでは、移行中にネットワーク運用が中断しないように、サーバー、アプリケーション、データを新しいデータセンターに移行してレジリエンスを確保する必要がありました。

トランスフォーメーション

キンドリル(旧IBMインフラストラクチャー・サービス)との協業によって、イシュバンクは提供サービスを中断することなく、9カ月でサーバー、アプリケーション、運用データをティア4のデータセンターに移行しました。これにより、顧客は24時間365日サービスを利用可能となり、同銀行が取り組むクラウド・コンピューティングへの移行準備にも大いに役立っています。

結果

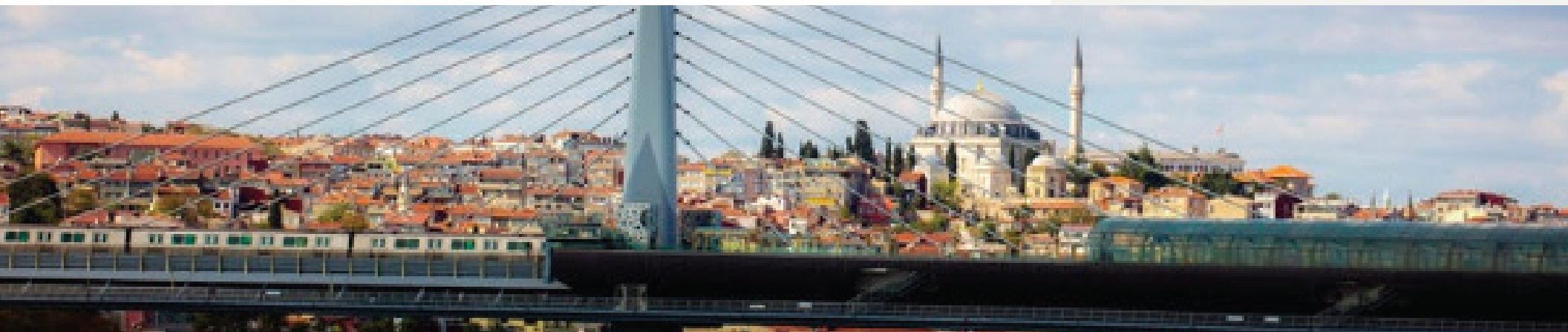
6,000台のサーバー、750台のアプリケーション、4PBのデータを9カ月で新しいデータセンターに移行完了

トルコ初の「Uptime Institute Tier 4」認定のデータセンターを構築

2017年、「DCD Magazine」のグローバル・カテゴリーで「Infrastructure Scale-Out Award」受賞

「キンドリルとの揺るぎないパートナーシップにより、我々は新しいティア4データセンターで最長時間のシステムの稼働を維持できました」

イシュバンク
最高技術責任者 (CTO)
Sabri Gökmenler 氏



トルコ国民にとって必要なイシュバンク

イシュバンクは、トルコ初となる当座預金の開設、ATMの設置、モバイル端末向けのバンキング・アプリケーションを提供した銀行です。95年前に設立されて以来、金融サービスに変革をもたらす企業としてその評判を獲得してきました。今日、同銀行はトルコの経済と密接に結び付いており、2,000万人を超える顧客が日常的にサービスを利用しています。

しかし、トルコの経済成長に合わせて規模を拡大した同銀行は、大規模なサービス障害を経験することになりました。2013年にはシステム全体のコンピューター・ネットワークに障害が発生し、バンキング・サービスを16時間にわたって停止せざるを得ない状況に陥ったのです。障害の原因を突き止めて解決した後、IT部門は、より柔軟かつ迅速に変化に対応できるITインフラストラクチャーの導入が最優先事項であることを痛感しました。

同銀行の経営陣が設定した目標を達成するには、競争の激化や厳しい規制の中での取引に対応でき、なおかつ新しいアプリケーションやテクノロジーを導入可能な、より高度なレジリエンシーを備えたデータセンターの構築が不可欠でした。シームレスなカスタマー・エクスペリエンスをサポートするだけでなく、停電やサイバー攻撃、人災もしくは自然災害などの予測不能な事態が発生した場合でも、事業を継続させられることが新データセンターに求められたのです。

イシュバンクの最高技術責任者(CTO)であるSabri Gökmenler氏は、キンドリルに依頼することになった経緯を以下のように説明します。

「当行には、ダウンタイムを最小限に抑え、なおかつデータを損失することなくデータセンターへの移行を実現できるパートナーが必要でした。キンドリルは、この条件をクリアした数少ないベンダーの1つでした。キンドリルに依頼した最大の決め手は、テクノロジーの進化にも対応し得るレジリエンシー強化の経験があったことです」

ITインフラストラクチャーの強化

包括的なデータセンター移行プロジェクトである「Project Atlas」に着手する前に、イシュバンクは3つの目標を掲げました。

- レジリエントなITインフラストラクチャーとデータセンターを構築し、事業継続のリスクを最小限に抑える
- ITアーキテクチャーの変革で、サービスを市場に投入するまでの時間を短縮する
- データ基盤を確立し、信頼に値する情報源を一元管理する

同銀行のIT管理部門がこのプロジェクトの進行を管理できるように、キンドリルは15カ国から100人以上の専門家を招集してチームを編成してサポート体制を整えました。キンドリル独自の手法に従い、同銀行の事業部はステークホルダーとして積極的にプロジェクトに参画しました。また、IT管理部門とキンドリルのチームは、クリティカルなポイントを特定して事前に予防措置を講じることで、移行におけるリスクを最小限に抑えることに成功したのです。

また、同銀行は、IT環境を画像で確認できるキンドリルの「Analytics for Logical Dependency Mapping (ALDM)」サービスを利用しました。同サービスはIT環境の自動可視化機能を搭載しており、マルチレベルのサーバーの依存関係を明確にします。また、プラットフォームに生じている異常を検出したり、インフラストラクチャーの全体像を把握したりすることにも役立つものです。

ハイレベルな移行計画を立てた後は、今回のプロジェクトを管理するセンターがプロセスの各ステップを管理しました。2〜3週間ごとにそれぞれのグループがProject Atlasにおいて担っているフェーズを実行。各チームは、業務に支障を来さないように夜間や週末に作業しました。移行作業は新しいデータセンターの建設と並行して進められ、同銀行の通常業務に大きな支障を来すことなく、9カ月で完了しました。

「Infrastructure Scale-Out Award」受賞

Project Atlasの完了後、イシュバンクは6,000台を超えるサーバー、750のアプリケーション、4PBのデータを新しいデータセンターに移行しました。イスタンブールから約65キロ離れた都市ゲブゼにあるデータセンターへの移行作業をスケジュールどおりに遂行するために、スタッフは80万時間を費やしました。

38,500平方メートルにも及ぶ大規模なデータセンターには、予備のデュアル電源サーバー、ストレージ、ネットワーク・リンク、冷却装置が完備されており、トルコ初のティア4データセンターとして話題になりました。さらに2017年12月に、同データセンターは「DCD Magazine」の「Infrastructure Scale-Out Award」を受賞しています。

綿密に計画されたこのプロジェクトでは、ダウンタイムは最低限に抑えられ、データの損失も発生していません。さらに、システムのエンド・ツー・エンドの可用性は99.93%から99.97%に向上し、新しいデータセンターを構築したメリットを改めて示すこととなりました。

他にもセキュリティやレジリエンシー、信頼性が強化され、同銀行の業務は円滑に進むようになりました。同銀行は、次に推進する「クラウド・コンピューティング・ジャーニー」のプラットフォームの構築にも新データセンターを活用する予定だと言います。

「キンドリルとのパートナーシップで培われた関係によって、新しいデータセンターで最長の稼働時間を実現できました。このデータセンターは当行を今後20年にわたってサポートすることになるでしょう。データセンターの構築は、当行がデジタル化に向けて準備を進める上で非常に重要な役割を果たしました」(Gökmenler氏)

kyndryl™



次のステップに進みましょう

キンドリルがどのように社会の生命線を担う重要なシステムを
進歩させているのか、詳細をご覧ください。

© Copyright Kyndryl Inc. 2021 Kyndryl は、米国もしくはその他の国における Kyndryl Inc. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ Kyndryl Inc. または他社の商標である場合があります。本資料は発行時点で最新のものであり、キンドリルが随時予告なしに変更する可能性があります。キンドリルが事業展開するすべての国で、全製品もしくはサービスが利用できるわけではありません。

